

兵庫県こころのケアセンター 平成19年度実施分に係る  
外部評価委員会 業績評価（個別事業評価）

評価対象事業	評価	所見
研修事業	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>こころのケアの専門機関として、新たに「いじめ」を研修テーマに加えるとともに、教員のバーンアウト、支援者の二次受傷など、幅広くニーズに対応した、実践的内容のプログラムが組み立てられており、受講者の評価も高い。</li> <li>また、定員を上回る受講者があるなど、その実績は高く評価でき、専門研修では、内容から考えて受講料が安いのではと思われるものもあるくらいである。</li> <li>今後も事業内容の評価・検証を継続して行い、フォローアップ研修の実施等専門研修の多様化・高度化や県外受講者への対応等、不断の見直し・検討を進めていくことで、より多くの関係者の期待に応えられるよう、研修体制の整備に努めてもらいたい。</li> </ul>
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページは以前と比較して見やすくなった。ホームページの充実とアクセス件数の増加、シンポジウムでの定員を上回る参加実績、センターでのパネル展示等、全体として評価できる内容となっている。</li> <li>なお、シンポジウムについては、良い内容だけに、位置付けを明確にするとともに、実施方法等を工夫することで、より一層良いものとなるよう取り組んでもらいたい。</li> <li>また、事業報告書に研修受講者の声を掲載し、研修の有用性をアピールしてはどうか。</li> <li>今後も時宜を得た情報提供を望むとともに、余裕があればの話ではあるが、国際的な発信についても期待したい。</li> </ul>
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携は実際の課題について連携することで初めて達成されていくものであるが、新潟県中越沖地震に際しての被災地支援から、新しい情報に関する講演会まで、多岐に渡る事業展開を行っており、広域的なネットワークの形成という面で、高く評価できる。</li> <li>関係機関の有機的な連携はますます重要になっており、期待されるところだけに、実質的な連携という面で、各種会議を開催した場合の成果や効果等について、もう一度考えてみることも必要ではないか。</li> <li>また、センターの事業では、危機介入的な実践研究などのノウハウは蓄積されてきたが、後方支援や連携研究のあり方は特に重要となるので、今後この事業に力を入れる必要があると考える。</li> </ul>
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数は昨年度より減少しているものの、JR福知山線脱線事故の影響が考えられ、少ないスタッフで多様な相談業務をこなしていると評価できる。診療への導入としての相談事業としては、役割を十分果たしていると思われる。</li> <li>今後も社会的ニーズに応えられるよう、相談件数や相談内容等について十分な分析を行い、診療所と相談室の役割分担や継続相談の位置付け等、相談事業のあり方の見直しに努めるとともに、特に初回相談の場合、敷居が高いような印象を抱かせないような配慮をお願いしたい。</li> </ul>
附属診療所の 運営	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラウマ症状は長期化することが多いので、就学や就職しながら、受診できる土曜開館は貴重であり、土曜日の受診件数が毎年増加していることから、時代のニーズに応える体制を整えた試みとして評価できる。</li> <li>また、PE療法の導入等、専門的なトラウマ治療機関としての責務を十分に果たしていると考えられ、20年度からの導入に向け準備を進めたセカンド・オピニオンについては、精神科受診にまつわることは他に相談しにくいことを考慮すると、画期的であるといえる。</li> <li>もっとも、潜在的なニーズはもっと大きいのではないかとと思われるため、相談・診療機能の積極的な広報に努めるとともに、スタッフが忙しさのあまり、センターの機能が十分に果たされないといったことがないよう、今後は過重負担への対応についても課題として検討してもらいたい。</li> </ul>
センター業務 運営の効率化	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>厳しい運営を強いられているようだが、効率的な業務運営に取り組んでおり、評価できる。</li> <li>よく努力しているが、宿泊施設は運営上の負担が大きいのではないかと。利用者が増加することを期待する一方、宿泊業務の要否については、今一度検討したほうがよいと思われる。</li> </ul>

(基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりといえない面もあるが、工夫若しくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている。又は中期計画を達成し得ない可能性がある。